

美術展印象記（追記）

作品は再掲（ ）出展数

白矢勝一

海老原隆郎「裸婦」（∞）



お父上の海老原録郎先生から一代にわたりの伝で、当クラブでは着手の六十年代で、じつは年余り連続出品頂いておりまですが、十一年余り連続出品頂いております。これまで横浜、小樽、マッターホルン、シドニーと粋な町の風景画でしたので、今回の裸婦は驚きでした。裸婦は私も出品はしておませんが描しております。奥が深く難しいテーマですが、表情といい、肉感、背景とともに大変上手く描き出

してこると感心しました。お忙しことは思いますが、同年代で、東京在住でこりついていますので、来年は懇親会会場で創作のアイデアや工夫など直接伺えれば幸いです。

小口文郎「錦秋」（6）



書道部部長の小口英世先生が弟さんです。親戚に日本画家かじつしやるだけあって、生まれつきセンスがあつたのでしょうか。毎年静謐な日本画作品で、観

る側の心も洗われ、穏やかにさせて頂いております。

日本画は顔料の扱いだけで、これまでの画中では見られなかつた赤や黄色といった明るい派手な色彩のバラで、独自のセンス溢れる背景とが上

手くマッチされた新境地で、先生の色彩を鑑賞させていただきました。次回は特に大変と伺つております。

が来年の十月開催の当美術展はどのよ

うな御作品なのでしょうか。今から楽しみ

にしておつます。

高木實「花」（III-III）
すでに十年以上連続して「出展頂いております。これまで近江八幡、酒田、祇園山川、鎌倉と由緒ある地の重厚な感じの風景画に目



園山川、